

healthycolumn
健康コラム

保健 医療 介護 福祉

●飯南病院 ☎72-0221 ●来島診療所 ☎76-2309 ●保健福祉センター ☎72-1770

**飯南病院
便り**

点滴の話



飯南病院 医師
馬淵寛也

暖かくなり、屋外で活動する機会も多くなりました。うっかりしていると熱中症に、なんてこともある季節です。病院で点滴などの手当てを受けた経験のある人もおられるでしょう。今回は点滴についてのお話です。

お医者さんが病院で「点滴しましょう」と言うとき、大きく分けて3つの目的があります。

一つは水分を補うこと。重症な熱中症や感染症の患者さんは、いくらスポーツドリンクを飲んでも水分の補充が追いつかないことがあります。この場合、血管の中に直接水分を入れる緊急処置を行います。つまり点滴。この時の点滴はスポーツドリンクに近い成分です。

もう一つは栄養を補うこと。ご飯が食べられない患

者さんへ行いますが、濃すぎる液体は血管を傷つけてしまうため、点滴には濃度の上限があります。このため500ミリリットル点滴をしても、おにぎり1-2個分程度の栄養にしかなりません。一方で水分の割合が多く、頼りすぎると水が余ってむくみがでます。点滴は、栄養を確保するには案外効率が悪いのです。

最後は、薬の通り道の確保。容体が急変した時すぐに薬を注射できるよう、あらかじめ点滴の針を置いておくことがあります。そのままでは血が固まって針が詰まるので、水分を補う時と同じ中身を流しておくことが多いです。

注意点もあります。例えば神経を痛めてしまうリスクです。皮膚の下には無数の神経があり、針が当たると痺れが生じます。医師や看護師は、神経がどのあたりにあるのか知っており、傷つける確率の低い場所を選んでいます。しかし身長や体型のように、神経の位置にも個人差があり、達人が行ってもリスクをゼロにはできません。

お医者さんは「点滴しましょう」の裏で、こんな風な目的とリスクのバランスを見極めていきます。

**保健福祉センター
便り**

**子宮頸がんワクチンで
将来の子宮頸がんを予防しよう！**

日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんになり、約2,900人の女性が亡くなっています。若い年齢で発症する可能性のあるがんです。子宮頸がんワクチンは、がんになる手前の状態(前がん病変)が減るとともに、がんそのものを予防する効果があることが分かっています。子宮頸がん予防には、ワクチン接種と定期的な子宮頸がん検診(20歳以上)が大切です。

●公費助成により無料で接種できる期限が決まっています。希望される人は、早めに計画を立てましょう。

対象者	年齢	無料で接種できる期限
定期接種対象者 (小学校6年生から 高校1年生相当)	小学6年生(平成24年4月2日～平成25年4月1日生まれ)	高校1年生相当になる 年度の年度末
	中学1年生(平成23年4月2日～平成24年4月1日生まれ)	
	中学2年生(平成22年4月2日～平成23年4月1日生まれ)	
	中学3年生(平成21年4月2日～平成22年4月1日生まれ)	
高校1年生(平成20年4月2日～平成21年4月1日生まれ)		
キャッチアップ接種対象者 (積極的な勧奨の差し控えにより 接種機会を逃した方)	平成9年4月2日～平成20年4月1日生まれ	令和7年3月31日まで※

※通常、全ての接種を終えるまでに約6か月の期間がかかります。

(令和7年3月31日までに接種を完了するためには、遅くとも令和6年9月末までに接種を開始する必要があります。)

●詳しくは、飯南町や厚生労働省のホームページをご確認ください。 **問合せ** 保健福祉課 ☎72-1770



こんにちは
中山間地域研究
センターです。

**世帯の買い物先等に関する
調査(アンケート)への
ご協力よろしくお願いたします**

●中山間地域研究センター ☎76-2025

<https://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>



今年度、島根県では県内中山間地域2エリアで、「世帯の買い物先等に関する調査」を実施します。飯南町では6月上中旬に各世帯にアンケートをお届けする予定です。

中山間地域の雇用と活力の維持のためには、物販や観光等による外貨獲得とあわせて、6次産業化や地元の商品・サービスの利用を拡大し、地域の所得を地域に回していくことが重要です。そのためには、地域の生産物や地域の買い物場所が地元でしっかり利用される仕組みをつくるが必要と考えています。

そこで、県では、飯南町にお住まいの皆さんから、現在の買い物の実態をお聞きするためアンケート調査を実施することとしました。皆さんからいただいた回答は、地元生産物の利用拡大や買い物環境の維持に向けた政策検討のための基礎データとして利用します。

お忙しいところお手数おかけしますが、調査へのご協力よろしくお願いいたします。

問合せ 地域研究科 ☎76-3830



今月号から「笑顔あふれる飯南暮らし」をテーマに、各地域で取り組まれている活動を取り上げていきます。

第1回 「わたしたちの地域、10年後どうなっているの？」

【町の地域づくりの方針】

「地域行事の担い手が少ない」「地域の人間関係が薄くなった」など、地域の将来に不安を感じたことはありませんか。今後も住み続けられる地域をつくるため、町内ではさまざまな取組が進められています。

● **目指す地域像** 「自らが地域で輝き、みんなで助け合い、住み続けることができる地域」

● **地域づくりを進める4つのポイント**

計画づくり

地域の課題魅力などを整理し、どういう地域を目指すのかを分かりやすくまとめ、住民間に広く共有する。

組織づくり

役職や年齢にとらわれず、多様な立場の住民が参画できる組織をつくり、住民交流・助け合い・防災活動などに対応できる体制を整える。

拠点づくり(地域を支える仕組みづくり)

地域のなかで、住民の交流機会の創出、地域情報の収集・発信などができる仕組みをつくる。

人づくり

若者、女性、子どもの地域活動への参画を促すとともに、学校と地域の相互協力、住民の学びの場づくりを行う。

4つのポイントを大切にしながら、各地域が実践活動を進めているほか、集落支援員、地域おこし協力隊を配置し、地域づくりをサポートしています。次回からは集落支援員、地域おこし協力隊により、地域のさまざまな活動をサポートします！